

多摩市 気候市民会議

第1回 キックオフ

気候変動対策が進んだ先の、多摩市を考えよう

開催レポート

日時: 2023年5月13日(土) 13:30~17:15

場所: 多摩市役所西第1~3会議室



当日のプログラム

第 1 回 キックオフ:気候変動対策が進んだ先の、多摩市を考えよう

項目	時間(分)	概要
開会挨拶	13:30	多摩市長 阿部裕行
オリエンテーション	13:35 (5分)	事務局より連絡 気候市民会議の目的と全5回の流れの説明、注意事項等
情報共有	13:40 (60分)	講演①「気候変動問題の全体像」 江守正多 先生 東京大学未来ビジョン研究センター教授、 国立環境研究所上級主席研究員
	14:40	休憩 (5分)
	14:45 (30分)	講演②「カーボンフットプリントと行動変容」 棚橋乾 先生 元多摩市立小学校校長 ※スマートフォンやタブレットを使って「じぶんごとプラネット」を 体験していただきます。
	15:15 (20分)	講演③「次期多摩市みどりと環境基本計画」策定の進捗状況と 若者たちの意見 山下紀明 先生 多摩市みどりと環境審議会 地球環境分科会会長、 特定非営利活動法人 環境エネルギー政策研究所(ISEP) 理事・主任 研究員
	15:35	休憩 (5分)
グループ別 意見交換	15:40 (55分)	テーマ:気候変動対策が進んだ先の、30年後の多摩市の 環境・社会のイメージは?
	16:35	休憩 (5分)
全体共有	16:40 (20分)	各グループから発表
本日の総評	17:00 (10分)	江守正多先生から総評
閉会 終了	17:10	次回のご案内 アンケートのご案内と記入

情報共有の様子



阿部市長のご挨拶



江守先生による講義①：気候変動問題の全体像



江守先生



棚橋先生による講義②：「カーボンフットプリントと行動変容」



じぶんごとプラネットに記入する参加者の様子



山下先生による講義③：「次期多摩市みどりと環境基本計画」策定の進捗状況と若者たちの意見

グループワークのまとめ

全グループのまとめ

気候変動対策が進んだ先の、30年後の多摩市の環境・社会のイメージは？

凡例 | ●ご意見のポイント | ◎○シール投票数

テーマ	30年後の環境・社会のイメージ	グループワークで出し合った意見のポイント
豊かさ	楽しく、笑顔で、心豊かに過ごせるまち	<ul style="list-style-type: none"> ●みんなが豊かに暮らせるまちにしたい ●気候変動対策をすることで、みんなが笑顔になっている (◎3) ●次の世代に安心してバトンを渡せる、安心して死を迎えられるまち (○1) ●自由な発想が湧いてくるまち (○1) ●楽しい気持ち、我慢せずに継続できる対策が進んでいる (◎4) ●大災害などが起きた時に国内外の人を受け入れても共存できるまち
食・消費	食やエネルギーの自給率が高いまち	<ul style="list-style-type: none"> ●地産地消が進んだまち (○1) ●地域で完結できる食やエネルギーの地産地消を進める (◎1、○2) ●農作物や緑が豊かなまち ●多摩市産の農作物が増え、地産地消・自給自足のものが増えると良い
	リデュース・リユース・シェアが進んだ、ごみや無駄なロスがないまち	<ul style="list-style-type: none"> ●いらなくなったものをシェアできる仕組みがある ●ゼロウェイストのまちが実現している (○1) ●食品や衣類などロスが減り、エコなまちになっている (○2) ●ペットボトルのプラスチックがゼロになっているまち
住まい・暮らし・健康	環境と経済に優しい住まいに暮らせるまち	<ul style="list-style-type: none"> ●CO2の排出が少ないライフスタイルが実現している (○2) ●社会経済的な背景に関わらず、環境負荷が少ない高性能・高効率な住宅に誰もが住んでいる ●再生エネルギーが進み、光熱費が安くなっている (○1) ●小規模の住宅の建て替えや整備の際に適用する緑の整備ルールがあると良い
	健康的に暮らせるまち	<ul style="list-style-type: none"> ●緑が豊かな環境をつくることで、空気もクリーンで健康づくりにもつながると良い (○1) ●管理の行き届いた緑の保全により、熱帯夜などの過ごし方も変わり、健康的に暮らせると良い (○2)

テーマ	30年後の環境・社会のイメージ	グループワークで出し合った意見のポイント
エネルギー	脱炭素なエネルギーに転換しているまち	<ul style="list-style-type: none"> ●再生可能エネルギーが当たり前になっている (◎1、○2) ●エネルギーシステムが再生可能エネルギーになっているまち (○5) ●水素エネルギーの活用が進んでいると良い ●CO2 の出ないエネルギーがもっと使われている (○2)
	脱炭素なエネルギーを発電しているまち	<ul style="list-style-type: none"> ●緑や自然エネルギーを取り入れ、エネルギー自給率をアップして環境負担が軽減されているまち (○2) ●公共施設のエネルギーの改善が進んでいる ●ムダになっているものや未活用の場所でどんどん発電している ●小さな規模と範囲ではじめられる地域冷暖房センターを設置する
移動	歩き・自転車で暮らしやすい、コンパクトなまち	<ul style="list-style-type: none"> ●環境と健康に優しい、歩いて暮らしやすいバリアフリーなまち (◎1) ●遊歩道などが増え、子どもから大人までより過ごしやすい・暮らしやすいまちになっていると良い ●徒歩や自転車などで移動しやすいコンパクトなまちを維持している ●「チャリフレンドリー交通」なまち (○2) ●コンパクト型のエコシティ (○1、◎1)
	CO2 を排出しない自動車移動している	<ul style="list-style-type: none"> ●都市間ロープウェイなど、CO2 を排出しない移動手段ができています ●市内を走る車が全て燃料電池自動車になっている ●少子高齢社会でも自動運転等により安全に移動できるまち (○2)
みどり・自然・生態系	みどりや自然が豊か	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもがもっと楽しめたり、経験ができたりする自然豊かな公園がある ●豊かな多摩市のみどりを守り、増やしていく (○1) ●多摩市の魅力でもある「人工と自然の緑」を楽しみながら活用する (◎1、○1)
	動植物・生態系が豊かで、人間と共存している	<ul style="list-style-type: none"> ●今よりも動植物が多様で、生態系が豊かになっている (○3) ●人間と動物が共存しつつ経済が発展しているまち (◎5)
協働・連携	一人ひとりが気候変動対策を自分ごととして捉えている	<ul style="list-style-type: none"> ●農作物をつくるなど対策を「自分ごと」にする
	みんなで協力して緑の保全や気候変動対策に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ●地域コミュニティが世代を越えて盛んになることで、緑の保全や管理、気候変動対策の推進の一助とする (◎1、○2) ●地域みんなで公園や図書館などの公共施設を守っているまちにしたい
	企業との連携を活かして、みんなで気候変動対策に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ●在市企業と連携してまち全体に対策を広げている (○3) ●全事業者、全住民が個々の CO2 排出量を正確に個々が把握しているまち (◎4) ●CO2 量を消費物品に表示するよう義務付けている (○1)

テーマ	30年後の環境・社会のイメージ	グループワークで出し合った意見のポイント
学び・情報発信	環境や気候変動について学び、情報発信を積極的に行っている	<ul style="list-style-type: none"> ●市内の学校で気候に関するゼミが受けられるようになっている ●気候変動対策への危機感や効果を実感できるものがまちなかにある（○1） ●環境情報が集まる掲示板で市民が情報共有できる ●インターネットを活用して「なぜ気候変動対策が必要か」知らない人へもっと発信がされている（○5） ●環境などの市民意識が高いまち
選ばれる・ブランディング	若い世代に選ばれるまちになっている	<ul style="list-style-type: none"> ●気候変動対策で若い人に「住みたい！」と思ってもらえる多摩市になっている（◎2） ●若い世代や子どもに選ばれるまちになっている ●若い人に住みたいと思ってもらえる多摩市に ●多様なスタイルの家庭が共存し、子育てする人に選ばれるまち（◎1、○3） ●他の市の手本として若者世代に選択され続けるまちになっている（○2） ●真似される多摩市になる ●ニュータウン団地の老朽化と高齢化が心配なので、ニュータウンのあり方を再考しながら気候変動対策につながる取組ができると良い
その他	ライフスタイルがまちのブランドになっている	<ul style="list-style-type: none"> ●「環境」や「気候」を出しすぎない。「都心でも星空が見えるまち」というキャッチコピーをつかって気候変動対策を推進する（◎2、○1） ●田舎で自然がある多摩市の暮らしが、クールでかっこいい新たなライフスタイルとしてブランディングされ、広がると良い（◎1、○2）
その他		<ul style="list-style-type: none"> ●今とそれほど変化がないかもしれない

江守先生による総評



- ・「もっと知りたい！」をどんどん深めていってほしい
- ・様々な世代・職業の人と話すこと自体が良かったのではないかな
- ・いい雰囲気や大事なしすぎて言いたいことは我慢しないでほしい
- ・高いレベルのキーワードが出てきたのが良かった
- ・「どんな多摩市にしたいんだっけ？」と思い出しながら次回以降議論していってほしい

●環境と健康に優しい、歩いて暮らしやすいバリアフリーなまち（◎1）

- ・学校の先生たちが歩いて出勤できるようになれば、先生たちの健康にも良い
- ・バリアフリーなまちで、誰も取り残されない
- ・歩きで、車の利用が減って環境にもよく、健康にも良い

●都市間ロープウェイなど、CO2を排出しない移動手段ができています

- ・都市間ロープウェイでCO2フリーに

●今よりも動植物が多様で、生態系が豊かになっている（○3）

- ・気候変動のせいで少なくなってしまった植物や動物の増加
- ・気候変動で変化する生態系にも適応できる。新たな動植物を受け入れられる

●みんなが豊かに暮らせるまちにしたい

- ・貧困による制約が少ないまち
- ・経済的状況だけでなく、健康、知識・教育など、さまざまな視点で制約がないことが大事
- ・ホームレスの人が多摩に定住できるようにしてあげたい
- ・路上生活をしないですむような、みんなが豊かに暮らせるまちになれば、まちの環境・社会にとって良いこと
- ・他のまちに真似されるような多摩モデルをつくっていけると良い

●気候変動対策をすることで、みんなが笑顔になっている（◎3）

- ・笑顔が溢れる市民
- ・楽しく対策している
- ・みんなが豊かに暮らせていると笑顔で暮らせる

●次の世代に安心してバトンを渡せる、安心して死を迎えられるまち（○1）

- ・安心して死を迎えられるまち
- ・気候変動対策が進んでいることで、次の世代に安心してバトンを渡せる

●自由な発想が湧いてくるまち（○1）

- ・自由な発想が湧いてくるまち
- ・安心して意見を出せる
- ・笑顔が溢れる市民であることと関係してくる

●地域みんなで公園や図書館などの公共施設を守っているまちにしたい

- ・地域の人全員で公園などの公共施設を守っていけるようにしたい
- ・公園の花壇を市民が手入れしていることを知って驚いた。みんなで守っていけると良い

- ・まちの景観も守る

●いらなくなったものをシェアできる仕組みがある

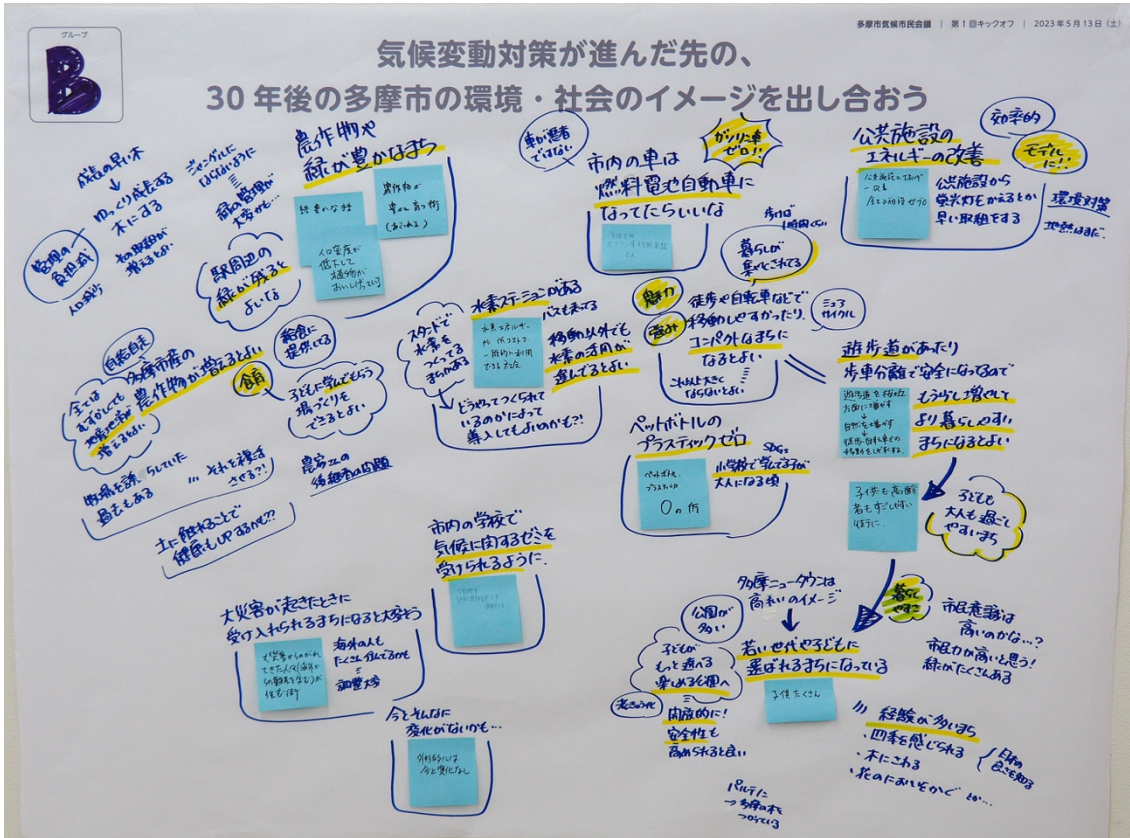
- ・ビニールプールとか
- ・捨てるのはもったいない

●地産地消が進んだまち（○1）

- ・多摩産の食べ物をみんな食べている
- ・食料自給率が高くなっている
- ・防災にも効果がある

B グループ

凡例 | ●ご意見のポイント | ・付箋の言葉 | ◎○シール投票数



●農作物や緑が豊かなまち

- ・ 緑豊かなまま
- ・ 人口密度が低下して植物が生い茂っている
- ・ ジャングルにならないように緑の管理をすることが大変かもしれない
- ・ 人口減少の社会では管理の負担を減らすことが課題になる
- ・ 管理の負担を減らすため、多摩市ではすでに街路樹等を成長の早い木ではなく、低木やゆっくり成長する木に変更している取り組みがある。その取組が増えていると良い
- ・ 農作物があふれるくらい豊かに育つまち
- ・ 駅周辺の緑が残ると良い

●多摩市産の農作物が増え、地産地消・自給自足のものが増えると良い

- ・ 自給自足を全て実現することは難しいため、地産地消のものが増えると良い
- ・ 牧場を誘致していた時代もあるのでそれを復活させる
- ・ 土に触れることで健康の促進になるかもしれない
- ・ 現在でも多摩市産のものを給食に提供している

- ・食育として子どもに学んでもらう場づくりをできると良い
- ・農家さんの後継者の問題があるかもしれない

●市内の学校で気候に関するゼミが受けられるようになっている

- ・学校で気候に関するゼミを受けている

●大災害などが起きた時に国内外の人を受け入れても共存できるまち

- ・海外からの難民を含む大災害から逃れてきた人々が住むまち
- ・海外の人もたくさん住んでいるかもしれない
- ・調整が大変そう

●今とそれほど変化がないかもしれない

- ・外形的には今と変化なし

●水素エネルギーの活用が進んでいると良い

- ・水素ステーションがある
- ・水素エネルギーのバスも走っている
- ・スタンドで水素をつくっているまちがあるので、同じようなステーションができると良い
- ・どのようにスタンドで水素がつけられているのか、安全であれば導入は良さそう
- ・水素エネルギーが低コストで一般的に利用できる社会
- ・移動以外でも水素の活用が進んでいると良い

●公共施設のエネルギーの改善が進んでいる

- ・効率的になっている
- ・公共施設が率先して切り替えていくことで、モデルになっている
- ・公共施設の蛍光灯を変えるなどの取組を早く行う
- ・環境対策をする
- ・地熱は現時点で取組はないが、他地域では地熱を活用している施設事例もある
- ・公共施設のエネルギー改善

●市内を走る車が全て燃料電池自動車になっている

- ・車が悪者ではない
- ・市内でのガソリン車利用者が0人
- ・ガソリン車をゼロに

●ペットボトルのプラスチックがゼロになっているまち

- ・今、小学校で学んでいる子が大人になる頃の実現している

- ・ペットボトルプラスチック0のまち

●徒歩や自転車などで移動しやすいコンパクトなまちを維持している

- ・これ以上市町村合併などで、まちが大きくなると良い
- ・魅力や強みである
- ・シェアサイクルも増えてきている
- ・歩いて1時間程度に暮らしが集約されている

●遊歩道などが増え、子どもから大人までより過ごしやすい・暮らしやすいまちになっていると良い

- ・遊歩道があるなど、歩車分離で安全になっている
- ・遊歩道を桜ヶ丘方面に増やす
- ・自然を増やす
- ・徒歩、自転車での移動をしやすくする
- ・子どもも高齢者も過ごしやすいまちに
- ・暮らしやすさ

●若い世代や子どもに選ばれるまちになっている

- ・多摩ニュータウンは高齢のイメージ
- ・子どもがたくさんになっている

●子どもがもっと楽しめたり、経験ができたりする自然豊かな公園がある

- ・公園は多いが、老朽化していることが多く、遊ばせるのが不安
- ・子どもがもっと遊べる、楽しめる公園になると良い
- ・開放的で、安全性も高められると良い
- ・パルテノン多摩は多摩の木を使っている
- ・木に触れられたり、土に触ったり、花のにおいをかぐなど、日本の四季が感じられ、経験が豊かなまち

●環境などの市民意識が高いまち

- ・市民意識は高いのか
- ・市民力が高いと思う
- ・緑がたくさんある

C グループ

凡例 | ●ご意見のポイント | ・付箋の言葉 | ◎○シール投票数



●他の市の手本として若者世代に選択され続けるまちになっている (○2)

- ・人口構成が変わらない、若者が増える (○1)
- ・他の市のお手本となるような市になる
- ・他の都市が高齢化していく中で、多摩市は人口構成が変わらない!

●全事業者、全住民が個々のCO2排出量を正確に個々が把握しているまち (◎4)

- ・全事業者・全住民のCO2排出量全把握
- ・正しい情報・多種多様な意見を取り入れた社会。全員が年に一回「じぶんごとプラネット」を使い生活の見直しをする
- ・データとして正しく把握することが大切

●食品や衣類などロスが減り、エコなまちになっている (○2)

- ・食品ロスや、衣類等のリサイクルにより無駄が減り、エコなまちになっている
- ・お店の工夫としては持ち帰り容器の準備、企業の工夫としてはプラスチックを減らす、個人の工夫としてはマイボトルの持参など、小さな工夫を普及させる。

●コンパクト型のエコシティ（○1、◎1）

- ・築年数が長くなった共同住宅の建て替えに際して、省エネ住宅（高断熱・太陽光パネル設置・エネファーム等）が増え、CO₂排出が格段と減ったまちになっている
- ・居住地がコンパクト化し、余った土地では開発をせず、緑を増やす
- ・（河川）緑地の増加（例）公園、畑、林
- ・緑の増加と住居の高質化を組み合わせ、吸収することと、排出量を減らすことの両立を実現している

●小規模の住宅の建て替えや整備の際に適用する緑の整備ルールがあると良い

- ・大規模開発ではないところに適用する細かいルールが必要！！
- ・土地の使い方を民間に委ねるのではなく、行政と民間が協力しながら取り組む
- ・多摩市の場合は共同住宅が多いので取り組みやすいかもしれない

●「チャリフレンドリー交通」なまち（○2）

- ・自転車専用レーンなど、インフラ整備が進み、「チャリフレンドリー交通」が一般化している
- ・オランダ並みのチャリフレンドリー交通
- ・インフラ設備が大切！

●緑や自然エネルギーを取り入れ、エネルギー自給率をアップして環境負担が軽減されているまち（○2）

- ・自然エネルギーを取り入れた環境に優しいまちで自給率を上げる（自然エネルギー）
- ・学校でも温暖化対策をする（例）グリーンカーテンの設置など（グリーンカーテン）

D グループ

凡例 | ●ご意見のポイント | ・付箋の言葉 | ◎○シール投票数



●気候変動対策で若い人に「住みたい!」と思ってもらえる多摩市になっている (◎2)

- ・多摩市に住みたい! と思ってほしい
- ・若い人が集まってもっと考える場を

●楽しい気持ち、我慢せずに継続できる対策が進んでいる (◎4)

- ・どの手段だとしても制限・我慢にならないようにすれば継続につながる
- ・手段をどう多摩市に取り入れていくか
- ・カラフルな太陽光パネルでたのしいまちに
- ・太陽光パネルばかりになるのもイヤ
- ・遊び感覚がないと長続きしない
- ・一方で、手放さなきゃいけないものもありそう

●インターネットを活用して「なぜ気候変動対策が必要か」知らない若い世代へもっと発信がされている (○5)

- ・多摩市のイベントを活用しよう
- ・SNS やアンケートで知識を発信

- ・多摩市 HP に若者向けの特集ページをつくる
- ・ツバル、キリバスでは海面上昇の避難場所を考えていて、内容をインターネットを活用して発信している

●**気候変動対策への危機感や効果を実感できるものがまちなかにある** (○1)

- ・実感としてわからないことのためにがんばるのはむずかしい
- ・達成率を可視化してライバルの都市と競い、PR をする

●**CO2 量を消費物品に表示するよう義務付けている** (○1)

- ・カーボン量を消費物品に表示する義務

●**在市企業を巻き込んで沿線に対策を広げている** (○3)

- ・個人だけでは難しい

●**CO2 の出ないエネルギーがもっと使われている** (○2)

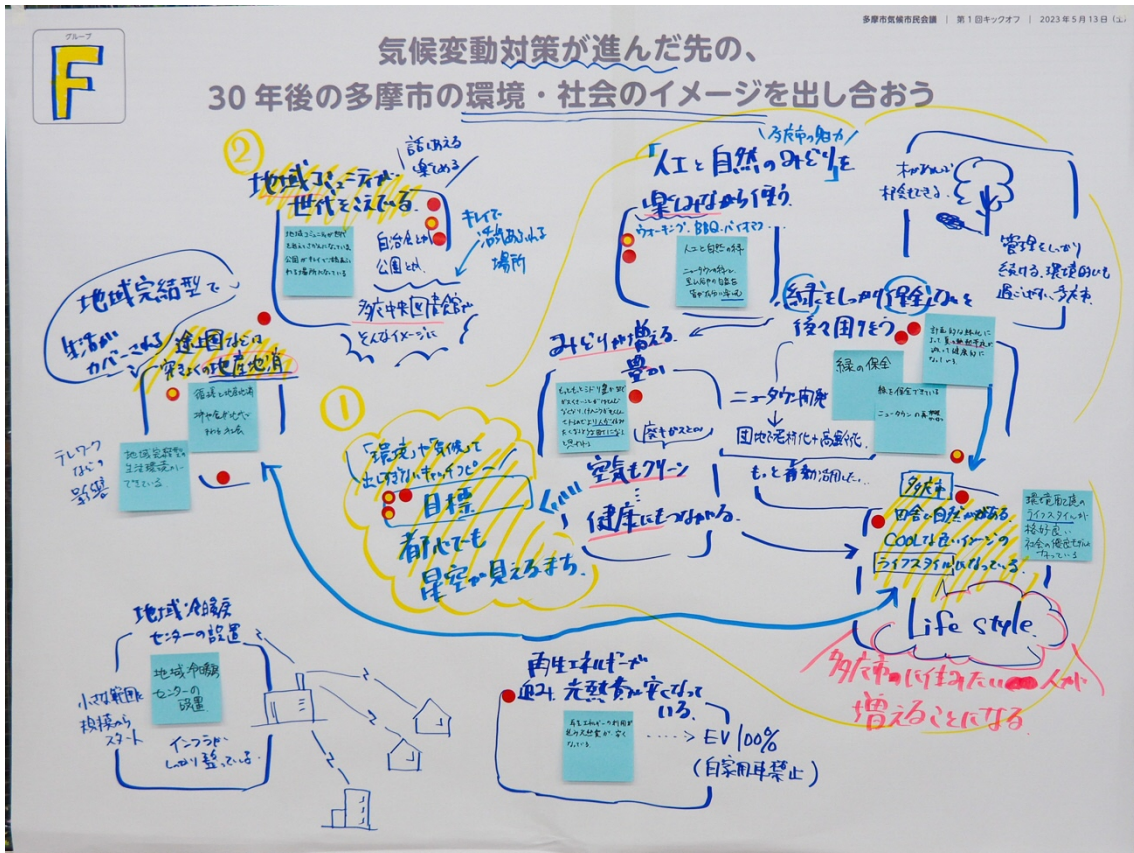
- ・CO2 の出ないエネルギーがもっと使われている

●**ムダになっているものや未活用の場所でどんどん発電している**

- ・身近なものでつくる (風力・水力)
- ・今ムダになっているもので発電する
- ・発電できる場所ではなるべく発電しよう!
- ・今活用できていないもので発電

F グループ

凡例 | ●ご意見のポイント | ・付箋の言葉 | ◎○シール投票数



- 「環境」や「気候」を出しすぎない。「都心でも星空が見えるまち」というキャッチコピーをつくって気候変動対策を推進する (◎2、○1)
 - ・都市でも星空が見えるまち
- 田舎で自然がある多摩市の暮らしが、クールでかっこいい新たなライフスタイルとしてブランディングされ、広がると良い (◎1、○2)
 - ・環境配慮のライフスタイルがかっこいい社会の優良モデルになっている
 - ・多摩市に住みたい人が増えることになる
- 多摩市の魅力でもある「人工と自然の緑」を楽しみながら活用する (◎1、○1)
 - ・ウォーキング、BBQ、バイオマス
 - ・人工と自然の緑
 - ・ニュータウンの緑と、里山の自然を皆が存分に楽しむ
- 緑が豊かな環境をつくることで、空気もクリーンで健康づくりにもつながると良い (○1)

- ・もっともっと緑が豊かでガス臭いことがほとんどなくなり、健康が促進されるのでより人が住みたくなるまちになると思われる
- ・排気ガスとかもなく、空気もクリーン
- ・健康にもつながる

●**ニュータウン団地の老朽化と高齢化が心配なので、ニュータウンのあり方を再考しながら気候変動対策につながる取組ができると良い**

- ・緑を保全できているニュータウンの再開発
- ・団地での老朽化と高齢化によるニュータウンの再開発があるが、もっと団地を有効活用したい

●**管理の行き届いた緑の保全により、熱帯夜などの過ごし方も変わり、健康的に暮らせると良い（○2）**

- ・計画的な緑化によって夏の熱帯夜が減って健康的になっていく
- ・緑の保全
- ・木があれば木陰もできる
- ・管理をしっかり続けることで、環境的にも過ごしやすい多摩市になる

●**地域コミュニティが世代を越えて盛んになることで、緑の保全や管理、気候変動対策の推進の一助とする（◎1、○2）**

- ・地域コミュニティが世代を超えて盛んになっている。
- ・自治会や公園、多摩中央図書館がそんなイメージになってほしい
- ・多摩中央図書館がきれいで活気溢れる場所になっている
- ・世代を超えて話し合えたり、楽しめる
- ・公園がきれいで活気溢れる場所になっている

●**地域で完結できる食やエネルギーの地産地消を進める（◎1、○2）**

- ・循環と地産地消によって、エネルギーや食が地域でまわる社会
- ・テレワークなどの影響で地域完結方の生活環境ができている
- ・地域完結型で生活がカバーされる

●**再生エネルギーが進み、光熱費が安くなっている（○1）**

- ・再生エネルギーの利用が進み、光熱費が安くなっている
- ・自家用車禁止でEVが100%になっている

●**小さな規模と範囲ではじめられる地域冷暖房センターを設置する**

- ・地域冷暖房センターの設置
- ・小さな範囲、規模からスタート
- ・インフラがしっかり整っている

G グループ

凡例 | ●ご意見のポイント | ・付箋の言葉 | ◎○シール投票数



●豊かな多摩市のみどりを守り、増やしていく (○1)

- ・多摩市の魅力は「緑豊かなまち」であること
- ・里山が守られている生物多様性のまち
- ・緑の多いまちで散歩したい
- ・開発の技術力が向上することで、開発しづらいところまで開発できるようになってきている。開発に伴う森林伐採に対して、もっと緑を植えるなど増やしていくことが大切
- ・みどりをなくす開発ではなく、みどりを増やす工夫をした開発へ
- ・人間中心の考え方をやめて自然との共存をベースに考えたい

●人間と動物が共存しつつ経済が発展しているまち (◎5)

- ・人間と動物が共存しつつ経済が発展しているまち
- ・人間主体の経済活動で自然や生き物が失われてしまう。自然や生き物との共存を図りつつ、一方で経済の発展も意識できると良い
- ・人間の都合で動物を殺処分するのは良くないこと。「地域ネコ」のように地域で育てていく取組がある

●エネルギーシステムが再生可能エネルギーになっているまち（○5）

- ・エネルギーシステムを再生可能エネルギーに移行
- ・脱炭素化が進んでいて、太陽光パネルが当たり前に各家庭に配置されている
- ・再生可能エネルギーの議論は、「元が取れるのか」という感覚があってなかなか進まないが、これが当たり前になっている社会にしたい

●ゼロウェイストのまちが実現している（○1）

- ・自販機がなく、給水スポットがまちなか、お店、駅にあるなどする、ゼロウェイストのまちにする
- ・団地から給水スポットの取組を始めてみる
- ・マンションでディスポーザーを導入している例もある
- ・家庭のごみで堆肥づくりをしてシェアいく
- ・補助金といったメリットがある制度があると動く
- ・ごみの行く末を知るとあるが、ごみ処理場に行ったらよくわかるので、現場見学で知ることが大事（LGBT ジャパンでは、見学ツアーを実施している）

●環境情報が集まる掲示板で市民が情報共有できる

- ・環境に良い取組について、どこで知ればいいのか分からないので、利害関係のない情報掲示板があるといい

●多様なスタイルの家庭が共存し、子育てする人に選ばれるまち（◎1、○3）

- ・子育てに恵まれたまちとして、次世代の人たちを集める多摩市になっている
- ・多様な新しい家庭（親が男女ではない家庭も婚姻関係が結べるようになっていて、ひとり親世帯のサポートもある）のスタイルが共存している
- ・子どもも大人も世代を越えて交流できる場がある（夏まつり）

●少子高齢社会でも自動運転等により安全に移動できるまち（○2）

- ・自動運転で移動できるまち
- ・自動運転のバスで出歩きたい
- ・20人弱のミニバスが、地域住民の足になる
- ・自動運転バスの実証実験もあった
- ・一方でミニバスは採算性があわずなかなかペイしないという問題もある
- ・安全運転を支援するサポカーをエコカー仕様にする
- ・車を持たずシェアしていく
- ・今は少子高齢化のまちで、高齢ドライバーの事故もあるので、こうした自動運転による安全な移動が求められている

●真似される多摩市になる

- ・これらの取組を通して、他都市の人が真似をしたくなるようなものにしていきたい